



ヘルプ

TRIMBLE® ACCESS™ ソフトウェア

バージョン 2014.20
改訂版 A
2014 年 10 月



はじめに.....	3
はじめに.....	3
Trimble Access の概要.....	3
サポートされているコントローラ.....	6
ソフトウェアのインストールおよび更新.....	7
ソフトウェアのアクチベーション.....	8
法定通知.....	9
Trimble Access.....	9
Trimble Access の特長.....	9
現場で Trimble Access にログインする.....	11
現場でアプリケーションやサービスを切り替える.....	13
アイコン配置を変える.....	14
測量の設定.....	15
設定メニュー.....	15
言語.....	15
インターネット設定.....	16
インターネット・セットアップ・ウィザードを使用した接続の設定.....	16
ファイル転送.....	23
コントローラとオフィスコンピュータ間のファイル転送.....	23

はじめに

はじめに

Trimble® Access™ ソフトウェア バージョン 2014.20 のヘルプによるこそ。

このヘルプシステムは、Trimble Access ソフトウェア ソフトウェアの能力と機能すべてを効果的に使用するのに必要とされる情報を簡単に見つけることができるように設計されています。

このヘルプの拡張や更新に関する情報は:

- Trimble のウェブサイト(www.trimble.com)にアクセスしてください。
- 最寄の Trimble 販売代理店にお問合せください。

Trimble Access の概要

Trimble Access ソフトウェアはフィールドで活用できる様々な測量ツール、およびオフィスやフィールドで使用するウェブベースのサービスを展開しています。こうしたプログラムはコントローラやオフィスコンピュータ、Trimble のサービスなどにインストールされています。

以下の表はシステムの各構成要素の機能およびインストール先を示しています。

アプリケーション	機能	インストール先...	標準 / オプション
Trimble Access インストール・マネージャ	Microsoft ActiveSync または Windows Mobile Device Center のサービスを通じてアプリケーションの最新の変更事項をコントローラにインストールおよび更新します。	オフィスコンピュータ	標準
Trimble Access メニュー	- コントローラのアプリケーションとサービスを開始します。 - コントローラで使用されているアプリケーションおよびサービスを切り替えます。 - システム通知警告を作成します。 - Trimble Connected Community にログインし、AccessSync を含めたウェブサービスにアクセスするのに使用します。	コントローラ	標準
一般測量	光学および GNSS センサを使用した普通の測量作業向けの一般的な測量アプリケーションです。	コントローラ	標準

インターネット設定	携帯電話からインターネットへの接続のセットアップを簡易化するウィザードです。	コントローラ	標準
設定	一箇所でシステム全体の設定を定義します。単位、接続設定(測量スタイルおよび無線を含む)、特徴ライブラリの設定、およびその他の設定全般を行ないます。	コントローラ	標準
道路	道路ジョブの定義、測量、レポートを専門的に行なうアプリケーションです。	コントローラ	オプション
トンネル	トンネルジョブの定義、測量、レポートを専門的に行なうトンネルアプリケーションです。	コントローラ	オプション
採掘鉞	掘削機の位置決めおよび作業レポートを行なう採掘坑専門アプリケーションです。	コントローラ	オプション
モニター中	モニタリング作業における定義、モニタリング、レポートを行なう専門アプリケーションです。	コントローラ	オプション
陸上地震探査	陸上地震探査に特化したアプリケーションで計画前定義を杭打ちします。	コントローラ	オプションナル
AccessSync	フィールドとオフィス間でインターネット接続を介した Trimble Access ソフトウェアファイルの無線送受信を可能にするサービスです。オフィスからフィールドにファイルを転送する際には、フィールドのコントローラに必要なバージョンにファイルを自動変換します。	コントローラ	オプション
GNSS 予想	特定の場所における衛星の可用性や電離層の状態にもとづいて GNSS 測量の適切性を予想するプランニングツールです。	コントローラ	オプション
Trimble Connected Community	- Trimble が管理運営するウェブベースのツールで、各機関がインターネットを使用して情報を素早く簡単に共有することを可能にします。 - Trimble Access ソフトウェア内でプロジェクトの作成、およびハードウェア	Trimble がホストとなって	オプション

	<p>アとサービスの管理を行なうことができます。</p> <p>- AccessSync サービスによってフィールドとの間で送受信されるファイルの送信先となります。</p>	いるサーバ	ョン
Trimble Connected Community Explorer (TCCE)	<p>- Microsoft Windows XP、Vista、Windows 7X オペレーティングシステムへのプラグイン機能で、Trimble Connected Community に含まれる組織ファイルやフォルダ構成がローカルユーザのコンピュータのマイコンピュータや Windows エクスプローラからアクセスできるようにします。TCCE によって、Windows と同様の方法でファイルやフォルダを管理することができ、Trimble Connected Community 内が非常にナビゲーションしやすくなりました。</p> <p>- ローカルコンピュータ上で選択したフォルダと Trimble Connected Community 上で選択したファイルスペースまたはフォルダを自動同期化することを可能にします。TCCE は最大で 10 組のフォルダを自動同期化することができます。</p>	オフィスコンピュータ	オプション
航空写真	<p>Trimble UX5 航空写真移動局の操作に使用する専門アプリケーションです。Trimble Tablet コントローラにインストールして使用します。</p>	コントローラ	オプション
機器マネージャ	<p>Equipment Manager Agent ソフトウェアは、Trimble InSphere™ Equipment Manager ウェブアプリケーションと連動し、企業の現場機器の中央管理を可能にします。詳しくは、www.trimbleinsphere.com/insphere/equipment-manager を参照してください。</p>	コントローラ	オプション
TerraFlex™	<p>Trimble TerraFlex のモバイルコンポーネントは、クラウド契約型のモバイル地理空間データ収集ソリューションです。サポートとさらに詳しい情報につきましては www.trimbleinsphere.com/insphere/terraflex-data-collection をご参照下さい。</p>	コントローラ	オプション
Access Marketplace	<p>Trimble Access で使用できるアプリケーションを閲覧することができます。Trimble のアプリケーション、パートナーアプリケーション、地域限定アプリケーションなどがあります。地域限定アプリケーションは非販売品ですが、Trimble Access ソフトウェア開発ツールキットの性能を示す画期的なソリューションです。例としては「China Electricity」や「China Survey Toolkit」などがあります。</p>	コントローラ	標準
Utility Survey	<p>Trimble Access からリアルタイムで地下の施設の 3 次元位置を検出および収集することができます。</p>	コントローラ	オプション
Level Me	<p>Trimble S シリーズトータルステーションを使用した正確な三角水準測量と、観測・計算・補正によって高度を割り出すことができる専門アプリケーションです。</p>	コントローラ	オプション

			ヨ ン
BathySurvey	多様なエコサウンダーから深さを GNSS 位置情報に追加することができる専門アプリケーションです。	コント ローラ	オ プ シ ヨ ン
BestFit	ライン、平面、円、球、円筒などの詳細に定義された 3D ジオメトリック要素のための最適な解を算出する専門アプリケーションです。	コント ローラ	オ プ シ ヨ ン
RM3D Output	鉄道線路の設計、モニタリング、データ収集、配置専門のアプリケーションです。	コント ローラ	オ プ シ ヨ ン
ARCH.e	考古学的発掘時にデータの記録と管理を行うコンピュータツールセットです。	コント ローラ	オ プ シ ヨ ン
Athletics	陸上大会の結果測定に使用する専門アプリケーションです。	コント ローラ	オ プ シ ヨ ン

メモ

- コントローラ内のソフトウェアのアップグレードは、かならず Microsoft ActiveSync またはオフィスコンピュータに接続された Windows Mobile Device Center を通じて行なう必要があります。
- フィールドコントローラのサービスは Trimble がホストするサーバへのインターネット接続を通じてデータを送受信します。

サポートされているコントローラ

Trimble Access ソフトウェアは以下のコントローラ上で実行されます。

- Trimble TSC3 コントローラ
- Trimble TSC2 コントローラ
- Trimble Tablet
- Trimble CU コントローラ
- Trimble Geo7X ハンドヘルド
- Trimble GeoXR ハンドヘルド

- Trimble Slate コントローラ
- Trimble S3 コントローラ (Trimble S3 トータルステーションに内蔵)
- Trimble M3 コントローラ (Trimble M3 トータルステーションに内蔵)
- 他社製 Windows PC にもサポートされているものがあります。以下のモデルは Trimble Access の使用がテスト済です：
 - Motion F5t Tablet PC
 - Panasonic Toughbook 19

メモ – 他社製 Windows PC をご使用の場合は、Trimble Access の説明書をお読みになる際に必ず Trimble Tablet に関する注記や節をお読み下さい。

さらに詳しい情報につきましては、www.trimble.com/Survey/Trimble-Access-IS.aspx にアクセスし、「Trimble Access for Windows Minimum Requirements」をダウンロードして下さい。

ソフトウェアのインストールおよび更新

Trimble Access Installation Manager をオンラインで使用して Trimble Access ソフトウェアをインストールできます。または、Trimble Access Installation Manager と全てのアプリケーションファイル、およびライセンスを受信機にダウンロードしておけば、後日インターネット接続がない場合でもインストールすることができます。

Trimble Access Installation Manager をオンラインで使用したソフトウェアのインストールおよび更新

Trimble Access インストールマネージャを使用してコントローラ上のすべての Trimble Access アプリケーションにソフトウェアおよび更新をインストールします。

Trimble Access Installation Manager をオンラインで使用したソフトウェアのインストールおよび更新

Trimble Access Installation Manager と全てのアプリケーションファイル、およびライセンスをダウンロードします。

Trimble Access インストールマネージャのオフラインバージョンを作成した場合：

- すべてのコントローラのライセンスがオフライン・インストールに含まれるように、コントローラのシリアル番号をリストアップして下さい。ライセンスをダウンロードしていないコントローラはオフラインで更新できません。
- オフラインインストールが利用できるよう Trimble Access ソフトウェアのバージョンを選択することができます。これにより、「Licence only (ライセンスのみ)」オプションが使用可能になり、追加のライセンスをダウンロードすることができます。既存のコントローラに新しいライセンスを購入する場合、またはオフラインインストールにコントローラを追加する場合には、必ず「Licence only」オプションを使用してライセンスをダウンロードして下さい。

さらに詳しい情報につきましては、www.trimble.com/taim/ をご参照下さい。

ソフトウェアのアンインストール

コントローラ更新時には、コントローラ上にインストール済みのものをすべて TAIM が自動的に再インストールします。TAIM の機能上、インストール済みのアプリケーションや言語を非選択にはできません。

お使いのコンピュータにインストール済みの Trimble Access ソフトウェアアプリケーションを、何らかの理由でアンインストールしたい場合、コントローラ上の **追加／削除プログラム** 機能を使用します。

メモ - コントローラに対するアプリケーション使用ライセンスが有効のままになっているため、初期設定では、次に TAIM を実行する際、アプリケーションのチェックボックスが選択されています。削除したアプリケーションが再インストールされないようにするには、インストールをクリックする前に、アプリケーション名に対応するチェックボックスを非選択にする必要があります。

同様に、不要になった Trimble Access の言語バージョンを削除するには、コントローラの **追加／削除プログラム** 機能を利用して削除します。その言語はインストールされていない状態となり、次に TAIM を実行する際、その言語に対応するチェックボックスは選択されていません。

ソフトウェアのアクチベーション

Trimble Access アプリケーションをインストールし、操作するには、ライセンスが必要です。

Trimble Access ソフトウェアの追加コンポーネントを購入、または既存ライセンスを延長した場合、ライセンスファイルは Trimble のホストサーバで更新されます。新しいライセンスファイルをダウンロードするには、以下のいずれかを実行します：

- Microsoft ActiveSync、または Windows Mobile Device Center を通じてコントローラをオフィスコンピュータに接続し、Trimble Access Installation Manager を実行します。
これで **ライセンスとソフトウェア** がアップデートされます。
- インターネットが接続された状態で、Trimble Access タスクバーか、現在使用しているアプリケーションのタスクバーにある Trimble ボタンをタップして、ドロップダウンメニューから「製品情報」を選択します。「ライセンス」ボタンをタップしてダウンロードを開始します。
ここでは **ライセンスのみ** アップデートされます。

情報

コントローラにインストールされたすべての Trimble Access アプリケーションとそのバージョン番号、ライセンス情報、使用許諾契約書 (EULA) のリストを表示するには、Trimble Access タスクバーまたは現在使用しているアプリケーションのタスクバーにある Trimble ボタンをタップして、ドロップダウンメニューから「製品情報」を選択します。

「情報」ダイアログには、[「ライセンス有効期限日」](#)、および [「ソフトウェア保証期限日」](#) の 2 つの期日が載っています。

ライセンス有効期限日

この日は、ソフトウェアやサービスを使用できる期限を表します。無期限ライセンスには有効期限日はありません。期限付きのライセンスは、コントローラに搭載されているライセンスの現在の有効期限日を表示します。しかし、有効期限付きのライセンスも、自動的に延長されるので、

表示されている日にちは、現在ダウンロードされているライセンスの有効期限です。契約が維持されていれば、Trimble Access Installation Manager ソフトウェアを実行するか、またはコントローラがインターネットに接続されている場合は、「情報」ダイアログから「ライセンス」ボタンをタップするだけで、ライセンスを更新できます。

ソフトウェア保証有効期限日

ソフトウェア保証有効期限日フィールドには、保証の期限が切れる日、または「契約中」と表示されます。「契約中」は、有効期限付きのライセンスも契約が維持されている限りは期限切れとしないことを表しています。ソフトウェア保証が切れても、ソフトウェアは使用し続けることができ、小規模な更新もすることができます。新しい改訂版のソフトウェアには有効な保証が必要です。

ハードウェアの延長保証や、ソフトウェアメンテナンスについての情報は、trimble_supportsales@trimble.com (英語)までお問い合わせ下さい。

法定通知

© 2009 – 2014, Trimble Navigation Limited. 著作権所有

Trimble、地球儀と三角形のロゴ、Autolock、Geodimeter、GPS Total Station、Tracklight、および TSC2 は、米国登録商標特許庁に、そしてその他の国々で登録された Trimble Navigation Limited の登録商標です。

Trimble Access、Trimble Geomatics Office、Trimble Business Center、Trimble Link、TRIMMARK、Zephyr は Trimble Navigation Limited の商標です。

RealWorks は Mensi SA の登録商標です。

Bluetooth という言葉のマークやロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有しており、Trimble Navigation Limited は許可を受けてそれを使用しています。

Microsoft、ActiveSync、Excel、Internet Explorer、Windows および Windows Mobile は、米国かつその他の国における Microsoft Corporation 社の登録商標または商標です。

その他の商標はそれぞれの所有者に帰属します。

本ソフトウェアの一部は Independent JPEG Group の製品に基づいており、RSA Data Security, Inc. の MD5 Message-Digest Algorithm を使用しています。

Trimble Access

Trimble Access の特長

Trimble Access メニューを使用して、Trimble Access ソフトウェア内にあるそれぞれのアプリケーションとサービスの間でナビゲーションを開始します。

Trimble Access ソフトウェアを起動するために、以下のいずれかを実行します:

Geo7X/GeoXR コントローラ:

- 「開始」メニューから Trimble Access をタップします。

TSC2/TSC3 コントローラ:

- Trimble ハードキーを押します。
- 「開始」メニューから Trimble Access をタップします。

Trimble CU コントローラ:

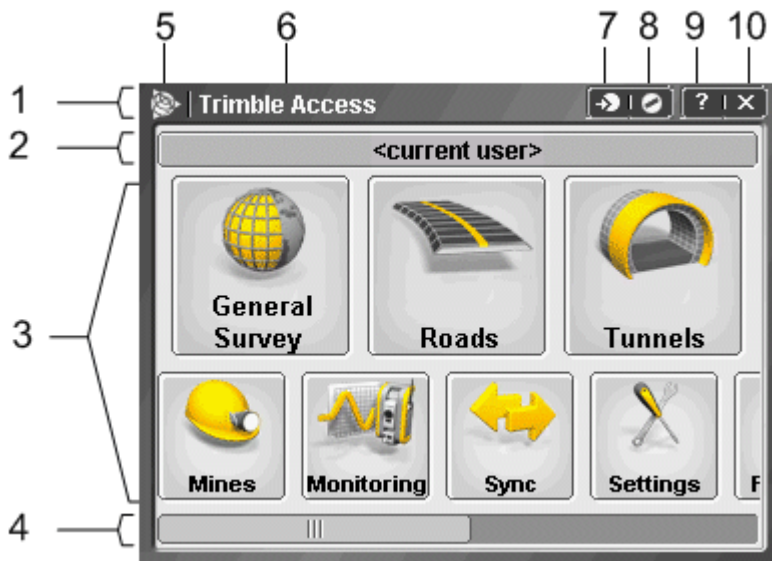
- 「起動 / プログラム」をタップします。

Trimble Tablet:







- デスクトップから、Trimble Access ショートカットアイコンをタップします。

メモ - Trimble Access を開始するたびに使用許諾書が表示されますが、これを表示しないようにするには「スタートアップの表示」フィールドのチェックボックスのチェックを外します。

以下の図と表は、キーの特長とソフトウェアの機能を表しています:



アイテム	特長	機能
1	Trimble Access タスクバー	Trimble Access ソフトウェア 内の全ての画面に表示され、アプリケーションやサービス間を自由に切り替えることができる他、システム情報も表示します。
2	ログイン・ボタン	現在誰がシステムにログインしているかを表示します。誰もログインしていない場合には、「ここをタップしてログイン」と表示されます。その他にこのボタンは、コントローラ上で全てのデータが保存されるフォルダ名を表示します。

		ログイン・ボタンを押してログインまたはユーザー切替を行いません。
3	アプリケーション・ボタン	タップして、アプリケーションの起動または切替を行います。
4	スクロールバー	スクロールすると Trimble Access アプリケーションを参照できます。
5	Trimble ボタン	Trimble Access メニューから Trimble ボタンをタップして次のことが行なえます： - インストールされている Trimble Access アプリケーションの情報（バージョンやライセンスを含む）を表示させます。 - アイコン配置を変える 。 その他全てのアプリケーションについては、Trimble ボタンをタップして Trimble Access メニューに戻り、他のアプリケーションに切り替えます。
6	タイトル	現在のアプリケーション情報、もしくは実行されているサービス、または表示されている画面名のいずれかが表示されます。
7	インターネット接続ボタン	インターネット接続の状態を表示します：  は、インターネットに接続されていることを示します。  は、インターネットに接続されていないことを示します。
8	警報ボタン	ユーザにシステム情報を知らせます。 警報ボタンをタップして通知を閲覧します。 警報にはレベルがあります：  情報警報：例) AccessSync サービスによるファイルのダウンロード完了など。  注意警報：例) インターネット接続が切断されたため、AccessSync が一時中断された、など。  警告：例) ライセンスの有効期限切れにより、アプリケーションの使用が不可能になってしまった、など  は、何も通知がないことを示します。
9	ヘルプボタン	タップすると、搭載されているヘルプファイルを開きます。
10	終了ボタン	Trimble Access メニューからタップして、全ての Trimble Access アプリケーションを閉じます。 他のアプリケーションでは、このボタンをタップすると現在使用中のアプリケーションのみ閉じます。

現場で Trimble Access にログインする

システムが初めて実行された時、データが保存されるディレクトリを定義するために全てのユーザは Trimble Access ソフトウェア に必ずログインしてください。全ての Trimble Access ファイルは、[¥Trimble Data¥<ユーザ名>]に保存されます。

ログインすると:

- 同じコントローラを使用する他のユーザとファイルの分割、識別ができます。
- 特定の現場作業員と団体の間のデータ管理が容易になる。

AccessSync サービスによりログインが必要となる理由:

- 現場からサービスへのアクセス認証するため。
- 現場にある任意のコントローラや団体、プロジェクトサイト、オフィスのフォルダロケーションなどへ正しくファイルを転送することを確保するため。
- どのコントローラからでも現場プロジェクトデータにアクセスできるようにするため。

Trimble Access ソフトウェアにログインするには:

1. Trimble Access メニューから、「ログイン」をタップし、「ログインモード」を選択します。

ログインモード	使用する機会	機能
[オフライン]	インターネット接続がない場合 または AccessSync など、オンラインサービスを購入していない場合。	データの保存先となるディレクトリを定義します。全ての Trimble Access ファイルは、[¥Trimble Data¥<ユーザ名>] に保存されます。
[オンライン]	AccessSyn などのオンラインサービスを購入している場合で かつ インターネットに接続している場合	<ul style="list-style-type: none"> - データの保存先となるディレクトリを定義します。全ての Trimble Access ファイルは、[¥Trimble Data¥<ユーザ名>] に保存されます。 - ユーザが現場からサービスにアクセスする資格があるか認証します。 - 現場にある任意のコントローラや団体、サイト、オフィス内のフォルダロケーションなどへ正しくファイルを転送されるようにします。

1. 詳細を入力して、以下のいずれかを実行します:
 - オフラインでログインしていて、AccessSync などのオンラインサービスを購入していない場合は、任意のユーザー名でログインできます。これは単にユーザのデータフォルダ名を定義するだけなので、パスワードは必要ありません。

「次へ」をタップします。

ユーザ設定をレビューして「完了」をタップします。

- オフラインでログインしている場合で、後で AccessSync などのオンラインサービスを使ってオンラインにする場合は、Trimble Connected Community ユーザ名(メンバーID)を入力します。パスワードは必要ありません。

ユーザ名は、データフォルダを設定するのに使用される他、オンラインサービスを使用する際の認証に使用されます。

「次へ」をタップします。

前回オンラインでログインしていた場合は、データ転送に利用できる Trimble Connected Community サイトのリストが表示されます。サイトを選択して「次へ」をタップします。次回インターネットに接続する時は、再度ログインすることなしにファイル転送できます。

前回オンラインでログインしていなかった場合は、ユーザ設定をレビューすることができます。その後「完了」をタップします。

- オンラインでログインしている場合、Trimble Connected Community ユーザ名（メンバーID）とパスワードを入力しなければなりません。Trimble Connected Community 団体の短い名称を入力するか、リストから選択します。ユーザ詳細は、データフォルダの設定とユーザ認証に使われます。

「次へ」をタップします。Trimble Access ソフトウェアは、Trimbleホストサーバに接続してユーザログイン詳細を認証するために、インターネット接続を使用します。認証されると、Trimble Access ソフトウェア は利用できる Trimble Connected Community サイトのリストを表示します。AccessSync サービスを使用してファイルを同期することができます。

ドロップダウンリストから Trimble Connected Community サイトを選択します。このサイトが AccessSync サービスを使用してファイルの送受信に使用されます。

「次へ」をタップします。

ログイン設定をレビューしたら、「完了」をタップします。

メモ

- AccessSync サービスは常に最新の Trimble Connected Community サイトとデータを同期します。もしこのサイトが間違っていて設定されていると、データは間違ったサイトに転送されてしまいます。
- このリストは、アクセスしている団体の Trimble Connected Community サイトのみを表示しています。より詳しい情報は [***untranslated***](#) Trimble Connected Community 許可を参照してください。
- コントローラに正しいデータセットがあることを確認してください。間違っているとログインが失敗する恐れがあります。
- ユーザ名を削除するには「削除」をタップします。関連するデータフォルダは削除されません。このフォルダを削除したい場合は、「ファイル」アプリケーションを使って手動で削除することができます。

コントローラから他のユーザ名でログインする

1. Trimble Access メニューにあるログインボタンをタップします。
2. 新しいユーザ名とパスワードでログインします。

メモ

- 現在使用中のユーザ名は Trimble Access メニューのログインボタンに表示されます。
- ユーザを切り替えた時にデータが正しい場所に保存されるようにするには、専門アプリケーションを再起動してください。

現場でアプリケーションやサービスを切り替える

一度に一つ以上のアプリケーションを実行することが可能で、アプリケーション間の切替えも簡単です。例えば、「道路」、「トンネル」、「鉱山」と「一般測量」の間で機能を切り替えることができます。

一度に一つ以上のアプリケーションを実行するには、画面の左上隅にある Trimble ボタン、または Trimble アイコンを使用して、Trimble Access メニューを開き、そこから他のアプリケーションを実行します。

アプリケーション間を切替えるには：

- タスクバーにあるTrimbleボタンをタップし、Trimble Access メニューなどの使用可能なアプリケーションのメニューや現在実行中のサービスにアクセスします。切り替えたいアプリケーションまたはサービスを選択します。
- TSC2/TSC3 コントローラで Trimble ボタンを押すと、Trimble Access メニューなどの使用可能なアプリケーションのメニューや現在実行中のサービスにアクセスします。切り替えたいアプリケーションまたはサービスを選択します。
- Geo7X/GeoXR コントローラで、Trimble ボタンをタップすると利用できるアプリケーションのメニューや Trimble Access メニューを含む実行中のサービス、Windows の「スタートメニュー」などにアクセスすることができます。
- 「切替先」をタップして、リストにある必要な機能を選択します。もし「切替先」ボタンが画面上にない場合は、CTRL W を押して、「切替先」ポップアップ・リストを開きます。
- CTRL TAB を押します。現在の機能切替先リストをスクロールするショートカットキーです。
- 「お気に入り」または CTRL A をタップして、予め設定してあるお気に入りを選択します。
- TSC2/TSC3 コントローラでは、「左アプリ」ボタンと「右アプリ」ボタンに実行したい機能を設定します。この方法によりアプリケーションが実行されていなくても、そのアプリケーションを開きます。

より詳しい情報は [Trimble Access ボタン](#) をご参照ください。

ヒント - この機能を使って現在実行中のアプリケーションのメインメニューに戻ることができます。例えば、Trimble Access 道路で「定義」オプションを実行中に、「マップ」を表示したい場合、Trimble ボタンをタップし、ドロップダウンリストから Trimble Access 道路を選択します。

同じジョブを以下のアプリケーションで同時に使用できます：

- Trimble Access 一般測量
- Trimble Access 道路
- Trimble Access トンネル
- Trimble Access 採掘鉱

より詳しい情報は、[ジョブ](#) を参照してください。

アイコン配置を変える

Trimble アクセス起動ツールに表示されるアプリケーション アイコンの配置を変えることができます。行なうには次のようにします：

1. タスクバーの左上にある Trimble ボタンをタップします。
2. **アイコン配置の変更** を選択します。

3. アプリケーション名をタップして任意のアイコンを選択し、アプリケーション名の右側に表示される方向ボタンを使用して移動させます。

測定の設定

設定メニュー

Trimble Access メニューの設定を利用して、複数のプログラムで使用されている共通設定を行ないます。

共通設定が行なえるプログラムは以下の通り：

- Trimble Access 一般測量
- Trimble Access 道路
- Trimble Access トンネル
- Trimble Access 採掘鉋

この測量スタイルメニューから、以下を実行できます。

- [測量スタイル](#) の作成や編集

テンプレートメニューで以下を実行できます。

- [テンプレート](#) の作成、編集、名前の変更また削除
- 他のジョブからテンプレートを [インポート](#)

このメニューから、以下を実行できます。

- [インターネットセットアップ](#) の設定
- 携帯モデムで使用する [GNSS コンタクト](#) を作成
- [自動接続](#) オプションの設定
- Trimble VX Spatial Station または Trimble S Series トータルステーション と Trimble 5600 トータルステーションの [無線機設定](#) の変更
- [Bluetooth](#) 接続の設定
- [Wi-Fi 画像転送](#) を設定します。Wi-Fi 画像転送ソフトウェアがインストールされているコントローラをお持ちの場合のみご利用になれます。

特徴ライブラリメニューで以下を実行できます：

- [特徴ライブラリ](#) の作成や編集

言語メニューで以下を実行できます。

- [言語](#) の変更
- [サウンドイベント](#) のオン・オフを切替
- Trimble キーボードのスイッチオンまたはオフ(他社製 Windows コンピュータのみ対応)。

言語





一般測量 ソフトウェアの言語を変更するには、

1. コントローラに言語ファイルを転送します。
2. Trimble Access メニューから、「設定 / 言語」をタップします。
3. 一覧から必要な言語を選びます。
4. 一般測量 ソフトウェアを再起動します。

インターネット設定

インターネット・セットアップ・ウィザードを使用した接続の設定

インターネット接続設定は「インターネットセットアップ」の中で管理されます。Trimble Access の中で「インターネットセットアップ」にまで行くには、以下のうちから 1 つを行います:

- Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。
- 「設定 / 接続 / インターネット設定」をタップします。
- Trimble Access タスクバーの [インターネット接続ボタン](#) ( または ) をタップします。

インターネット・セットアップ・ウィザードにより、コントローラ上でインターネット接続を簡単に設定できます。インターネット接続が設定されれば、インターネット・セットアップを使用してインターネットへの接続と切断を素早く行なうことができます。さらにこの接続を利用して Trimble Connected Community にオンラインでログインできます。その後以下のセグメント化されたアプリケーションを実行します:

- [Trimble Access AccessSync](#)
- Trimble Access 一般測量
- Trimble Access 道路
- Trimble Access トンネル
- Trimble Access 採掘鉞
- Trimble Access モニター中
- [Trimble Access GNSS 予想](#)
- Trimble Access インターネット

インターネット・セットアップは、モデム/電話による接続と Wi-Fi による接続に対応しています。

インターネットへの接続に必要な手順は、ユーザ様がお使いのコントローラによって異なります。詳しい情報については、以下のセクションを参照してください:

- [タブレット以外の Trimble コントローラ](#) でのインターネットへの接続
- [Trimble Tablet](#) 上でのインターネットへの接続

タブレット以外の Trimble コントローラ上でのインターネットへの接続

TSC3 / Slate / Geo7X / GeoXR 上でインターネットへの接続を行うには、コントローラの内蔵モデムを使用して [インターネット接続を作成](#) します。

Trimble CU および TSC2 両コントローラは、内蔵セルラーモデムを備えていないので、インターネットへの接続には外部の電話またはモデムを使用する必要があります。開始前に以下のうちの 1 つを行ってください:

- ケーブルを使用している場合、セルラーモデムのデータケーブルをコントローラのシリアルポートに接続します。
- Bluetooth 無線技術を使用しているときは、Bluetooth が有効になっていて、かつセルラーモデムのペアリングと接続がされていることを確認します。

電話またはモデムに接続したら、内蔵モデムを搭載したコントローラを使用するときと同様に、[インターネット接続を作成](#) します。

もう一つの方法として、TSC3 / TSC2 / Geo7X / GeoXR コントローラをお使いの場合、[内蔵 Wi-Fi 無線機を使用してインターネットに接続](#) することもできます。

CDMA ネットワーク上で Trimble コントローラを有効にするには:

米国内で統合デュアルモードモデムを搭載した第 2 世代 Trimble Tablet、Geo7X、または TSC3 コントローラをご使用されていて、かつ適切な利用契約をお持ちの場合は、それを使用して Verizon CDMA ネットワークにアクセス可能です。デュアルモードモデムは、GSM/GPRS モードまたは CDMA モードで作動可能です。

第 2 世代の Trimble Tablets と Geo7X コントローラにはかならずデュアルモードモデムが搭載されています。デュアルモードモデムを搭載した TSC3 コントローラには、-002 で終わるパーツ番号 (例 TSC3112-002) が付いています。お使いの TSC3 コントローラのパーツ番号を確認するには、バッテリーを取り外し、バッテリー格納部の左側に貼付されたラベルが見えるようにします。

電話は、CDMA ネットワークにアクセスする前に「有効化」される必要があります。有効化の前に、お使いのサービスプロバイダに MEID を提供する必要があるかもしれません。これを行う必要があるのは 1 回だけです。有効化を行うには、電話が登録されている必要があります。

Geo7X/TSC3 コントローラに搭載されている電話を有効化するには:

1. Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。
2. *GSM/CDMA 設定* をタップします。
2. CDMA モードを選択します。
4. *有効化* をタップします。


第 2 世代 Trimble Tablet に搭載されている電話を有効化するには、サポートノート「Yuma 2: Activation of CDMA/Verizon Connectivity」を www.trimble.com からご参照ください。

タブレット以外の Trimble コントローラ用に、電話/モデムを使用したインターネット接続を作成または編集するには:

1. Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。

2. 「電話/モデム」を選択します。

メモ – 統合デュアルモデムを搭載したコントローラをお使いのときは、*GSM/CDMA 設定* をタップし、ご希望のモードにモデムを切り替えます。CDMA ネットワークをお使いのときは、電話を有効化するまでは使用できません。上記の「CDMA ネットワーク上で Trimble コントローラを有効化するには」を参照してください。

3. 「新規 / 編集」ボタンをタップします。 
4. ドロップダウンリストから、*ポート* を選択します。これはコントローラからセルラーモデムへの接続のタイプです。以下、ケースごとの詳細です：

- コントローラの内蔵モデムをお使いの場合、*内蔵モデム* を選択します。

ヒント – SIM カードの場合のアクセスは、TSC3 コントローラ上のバッテリーを利用し、Slate / Geo7X / GeoXR コントローラの左側にあるポートを介して行われます。

- モバイルインターネット CF カードをお使いの場合、「*モバイルインターネットモデム*」を選択します。
- Bluetooth ワイヤレス技術をお使いの場合、「*Bluetooth*」を選択します。
- ケーブルをお使いの場合、「*COM1 上の Hayes Compatible*」を選択します。CU コントローラをお使いの場合、「*COM2 上の Hayes Compatible*」を選択する必要があるかもしれません。

Bluetooth を選択するときは、ドロップダウンリストから Bluetooth デバイスを選択します。このリストには、コントローラとペアリングされたすべてのモデムが表示されています。お使いのデバイスがリストに表示されていないときは、そのデバイスをペアリングする必要があります。

TSC3 / Slate / Geo7X / GeoXR 上のデバイスをペアリングするには：

- a. 「パートナーシップの作成」をタップします。
- b. 「モード」タブにある、「Bluetooth を起動する」が選択されていて、モデムの Bluetooth が有効となっていることを確認した上で、デバイスがリストに表示されているかを確認します。
- c. 「デバイス」タブをタップして、「新規デバイス」を選択します。これにより他の Bluetooth デバイスのスキャンを開始します。
- d. 希望のデバイスをリストから選択して「次へ」をタップします。
- e. 必要に応じてパスキーを入力して「次へ」をタップします。
- f. 「完了」をタップすると「インターネット設定」に戻ります。

デバイスを TSC2 コントローラと対にするには：

- a. 「パートナーシップの作成」をタップします。
- b. 「モード」タブにある、「Bluetooth を起動する」が選択されていて、モデムの Bluetooth が有効となっていることを確認した上で、デバイスがリストに表示されているかを確認します。

- c. 「デバイス」タブをタップして、「新規パートナーシップ」を選択します。これにより他の Bluetooth デバイスのスキャンを開始します。
- d. 希望のデバイスをリストから選択して「次へ」をタップします。
- e. 必要に応じてパスキーを入力して「次へ」をタップします。
- f. 「完了」をタップしてから、「OK」をタップすると「インターネット設定」に戻ります。

デバイスと Trimble CU コントローラを対にするには：

- a. 「パートナーシップの作成」をタップします。
 - b. 「モード」タブにある、「Bluetooth を起動する」が選択されていて、モデムの Bluetooth が有効となっていることを確認した上で、デバイスがリストに表示されているかを確認します。
 - c. 「デバイスをスキャンする」をタップします。これにより他の Bluetooth デバイスのスキャンを開始します。
 - d. リストから希望のデバイスを選択し、矢印ボタンを使って「信頼できないデバイス」ウィンドウから「信頼できるデバイス」ウィンドウに移動します。
 - e. 必要に応じてパスキーを入力します。
 - f. 「OK」をタップして「インターネット設定」に戻ります。
5. 使用するモデムが PIN 暗証番号を必要とする場合、「このモデムは暗証番号が必要です」を選択して、暗証番号を入力して「OK」をタップします。
 6. 「次へ」をタップします。
 7. 「ホームネットワークロケーション」、「サービスプロバイダ」と「プラン」の詳細を選択します。

この詳細がリストにない場合は、手動で設定することができます：

- a. 「サービスプロバイダ」をタップします。
- b. 「APN」には値を入力するか、「なし」を選択するか、または「アクセスポイント名 (APN) を選択」ウィザードを使用します。ウィザードの「ロケーション」フィールドで国を選択し、「プロバイダとプラン」を選択したら、「承認」をタップします。「APN」が更新されます。
- c. 「ダイヤルする番号」フィールドで、「*99***1#」と入力します。「*99***1#」はモバイルインターネットの標準的なアクセスコードです。これを使って接続できない場合は、モバイルインターネットプロバイダにお問い合わせ下さい。
- d. ネットワーク接続に必要な場合は、「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。

ヒント - TSC3/Slate/Geo7X/GeoXR をご使用の場合で、内蔵モデムを選択したときは、「検出」ボタンをタップし、SIM カードによって検出されたサービスプロバイダ情報を引き出します。

8. 「次へ」をタップします。

統合デュアルモードモデムを搭載したコントローラをお使いの場合、お使いの接続タイプに対してモデムが正しく設定されていないと、モードを切り替えるように促すプロンプトが表示されます。

9. 接続設定名を入力して、「完了」をタップします。

メモ

- すでに同じ名前の接続があった場合、既存の接続を上書きするように促されます。上書きしたくない場合は、「いいえ」をタップし他の名前で接続を保存します。
- 初期設定されているサービスプロバイダーの詳細が変更されると、新しい詳細が [userserviceproviders.xml] ファイルへと保存されます。保存先は [¥Program Files¥Trimble¥Common] です。初期設定値に戻したい場合は、コントローラからこのファイルを削除します。
- モデム暗証番号のある CompactFlash カードを利用してインターネットに接続することはできません。TSC2 コントローラにある CompactFlash カードを使用する場合、SIM に暗証番号がないことを確認してください。
- 誤った PIN 番号を 3 回入力してしまうと、緊急連絡以外の場合 SIM カードがブロックされてしまいます。PUK(パーソナル・アンブロッキング・キー)コードの入力を求めるプロンプトが表示されます。モデムの PUK コードをご存じでない場合、モデムの SIM カードの提供会社にご連絡ください。誤った PUK コードを 10 回入力してしまうと、SIM カードは無効になり使用不可能になってしまいます。この場合、カードを変更する必要があります。

タブレット以外の Trimble コントローラ上で、電話/モデムインターネット接続を確立したり、切断したり、現在の状態を確認したりするには:

問題なく接続が保存されると、インターネットへの再接続が容易になります:

1. 「GPRS 接続」ドロップダウンリストから、予め設定されている接続を選択します。
2. Bluetooth を使用している場合、「Bluetooth を有効にする」が選択されていることを確認します。
3. 「接続」をタップします。

接続が確立されると、「インターネット設定」ステータスバーが「インターネット接続 <接続名> が確立されました」と更新されます。「接続」ボタンも「切断」に変わります。切断するには「切断」をタップします。

接続が存在しないときは、インターネットセットアップ状態バーが「インターネットに接続されていません」に更新され、「接続を切る」ボタンが「接続」に変わります。

タスクバーにも [インターネット接続インジケータ](#) があります。これは他の [Trimble Access](#) 画面で見ることができます。

ヒント - Trimble Access で設定済みのインターネット接続を使用するため、ウェブブラウザなど、タブレット以外のコントローラ上で他のアプリケーションを有効にするには、「プライベートネットワークへの自動接続を実行するプログラムは以下を使用して接続する」設定が TrimbleNet

に設定されていることを確認してください。この設定を編集するには、Windows のスタートメニューから、「設定 / 接続」をタップしてから、「接続」アイコンをタップします。「高度な設定」を選択してから、「ネットワークの選択」をタップします。

メモ

- **メモ** - 現在のコントローラへの Active Sync 接続、または WiFi 接続は、インターネット・セットアップ・ウィザードに表示されます。
- カメラへの Wi-Fi 接続がある場合、インターネット・セットアップ・ウィザードが誤って Wi-Fi 接続が確立しました、と報告する場合があります。
- カメラへの Wi-Fi 接続を使用すると同時にインターネット接続も使用する場合は、まず最初にインターネット接続を作成し、それからカメラへの接続を作成してください。

TSC3 / TSC2/ Geo7X / GeoXR コントローラをお使いの際、Wi-Fi 接続を使用してインターネット接続を作成または編集するには:

1. Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。
2. *Wi-Fi* を選択すると、コントローラの Wi-Fi が有効になります。

メモ - コントローラの Wi-Fi を無効にするには、*電話 / モデム* オプションを選択します。

3. Wi-Fi の設定と接続を行なうには次のいずれかを実行します:
 - TSC2 コントローラ上で「スタート / 設定 / 接続 / ワイヤレスマネージャ」をタップします。
 - TSC3 コントローラ上で「スタート / 設定 / 接続 / Wi-Fi」をタップします。
 - Trimble Geo7X コントローラ上で Trimble ボタンを押し、「スタートメニュー」を選択してから、「設定 / 接続 / ワイヤレスマネージャ」を選択します。「メニュー」をタップしてから、「Wi-Fi 設定」を選択します。
 - Trimble GeoXR コントローラ上で、Trimble ボタンをタップして、「スタートメニュー」を選択します。そして「設定 / 接続 / Wi-Fi」を選択します。

既にネットワークへの接続が設定されている場合、ネットワークの接続範囲内にコントローラがあれば、コントローラは自動的にそのネットワークに接続します。

Trimble Tablet 上でのインターネットへの接続

第 2 世代 Trimble Tablet にはデュアルモードセルラーモデムが搭載されています。CDMA ネットワークをお使いの場合は、電話を有効化しないと使いこなせません。さらに詳しい情報につきましては、サポートノート「Yuma 2: Activation of CDMA/Verizon Connectivity」を www.trimble.com からご参照ください。

第一世代の Trimble Tablet コントローラには、内蔵セルラーモデムが搭載されていません。インターネットに接続するには、外付けの電話やモデムを使用するか、タブレットに内蔵の Wi-Fi 無線機を使用してください。

タブレットをインターネットに接続するには以下の方法のいずれかを使用します:

- [Bluetooth ワイヤレス技術を使用して接続された外付け電話またはモデム](#)
- [Tablet の内部セルラーモデム](#) (第二世代 Trimble Tablets のみ)
- [Tablet の内蔵 Wi-Fi 無線機](#)

外付けの電話やモデムを Bluetooth で接続して Trimble Tablet から新しいネットワーク接続を作成するには

メモ – 新しいネットワーク接続を作成する前に、Bluetooth モデムとペアリングしたことを確認してください。

1. Trimble Access のメインメニューから「設定」/「接続」/「GNSS コンタクト」の順にタップします。
2. GNSS コンタクト内から、「ネットワーク接続」フィールドの右手にある矢印をタップします。
3. ネットワーク接続ページから「追加」をタップします。
4. ネットワーク接続の「名前」を入力します。
5. 「Bluetooth モデム」をペアリングしたデバイスのリストから選んでください。
6. 「APN」には値を入力するか、「なし」を選択するか、または「アクセスポイント名 (APN) を選択」ウィザードを使用します。ウィザードの「ロケーション」フィールドで国を選択し、「プロバイダとプラン」を選択したら、「承認」をタップします。「APN」が更新されます。
7. 「ダイヤルする番号」フィールドで、「*99***1#」と入力します。「*99***1#」はモバイルインターネットの標準的なアクセスコードです。これを使って接続できない場合は、モバイルインターネットプロバイダにお問い合わせ下さい。
8. ネットワーク接続に必要な場合は、「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。
9. 「承認」をタップして新しいネットワーク接続を作成します。

メモ

- 既存のネットワーク接続の設定を表示するには、接続を反転表示し、「編集」ソフトキーをタップします。
- GNSS コンタクト外のネットワーク接続を作成するには、Trimble Access メニューから「インターネットセットアップ」を使用するか、「設定/接続/インターネットセットアップ」を選択します。「インターネットセットアップ」は直接 Windows ネットワークと共有センターにジャンプします。

内部モデムを使用して Trimble Tablet から新しいネットワーク接続を作成するには(第 2 世代 Trimble Tablet のみ)

以下のうちのいずれかを行います:

- 「Sierra ワイヤレス WWAN モデム」をモデムタイプとして選択し、Windows の「ネットワークと共有センター」を使用してネットワーク接続をセットアップします。Trimble Access の

メインメニューから「設定」/「接続」/「GNSS コンタクト」をタップします。GNSS コンタクトから「ネットワーク接続」フィールド右にある矢印をタップし、作成した接続を選択します。必要に応じて「ユーザ名」と「パスワード」を入力し、「承認」をタップします。

- 「開始」メニューから、「プログラム」/「Sierra ワイヤレス」を選択し、AirCard Watcher ユーティリティを使用してインターネットに接続します。そして Trimble Access メインメニューから「設定」/「接続」/「GNSS コンタクト」をタップします。GNSS コンタクト内から「ネットワーク接続」フィールドの右の矢印をタップし、「Wi-Fi, ActiveSync」という名前のネットワーク接続を選択し、「承認」をタップします。

Trimble Tablet で使用するため、Wi-Fi 接続を利用してインターネット接続を作成または編集するには:

1. Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。
2. Windows の「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。「新しい接続またはネットワークの設定」を選択して Wi-Fi 接続を作成します。詳細は Windows ヘルプをご参照ください。

ファイル転送

コントローラとオフィスコンピュータ間のファイル転送

この項では、Trimble コントローラとオフィスコンピューター間のデータ転送の方法を説明します。転送可能なファイルタイプの一覧や、転送のために装置を接続する方法の説明も含まれています。

メモ - 「Trimble CU」とは、Trimble CU (Model 3) コントローラも含むすべてのバージョンの Trimble CU を指しますが、Trimble CU (Model 3) コントローラと特に明記されている場合もあります。ご使用の Trimble CU が Model 3 コントローラかどうか確かめるには、背面のラベルをご覧ください。

詳細については、以下を参照してください。

[Trimble コントローラとオフィスコンピューター間のデータ転送](#)

[TabletSync を使用して Trimble Tablet コントローラをオフィスコンピュータに接続](#)

[USB メモリスティックを使用して Trimble Tablet コントローラとの間でファイルを送受信](#)

[Microsoft ActiveSync を使用して Trimble の非タブレット型コントローラをオフィスコンピュータに接続](#)

[Microsoft Mobile Device Center を使用して Trimble の非タブレット型コントローラをオフィスコンピュータに接続](#)

[Bluetooth を使用して Trimble の非タブレット型コントローラをオフィスコンピュータに接続](#)

[Trimble の非タブレット型コントローラで使用するために Wi-Fi を設定](#)

[Trimble Data Transfer\(データ転送\)ユーティリティの使用](#)

[Microsoft エクスプローラを、使用可能な状態にある Microsoft ActiveSync / Windows Mobile Device Center ソフトウェアと一緒に使用](#)

[ファイル転換](#)

[Geodimeter\(GDM\) ジョブファイルの転送](#)

[Zeiss M5 ファイルの転送](#)

[ESRI Shape ファイルの転送](#)

[ESRI GeoDatabase XML ファイルの作成](#)

[AutoCAD Land Desktop ソフトウェア](#)

Trimble コントローラとオフィスコンピューター間のデータ転送

Trimble コントローラとオフィスコンピューター間で様々なタイプのファイルを転送できます。それには、データコレクター(.dc)ファイルや特徴コードファイル、デジタル地勢モデル(DTM)、言語ファイルが含まれます。Microsoft ActiveSync / Windows Mobile Device Center を使用するオフィスコンピューターと Trimble コントローラ間の接続が確立すると、コントローラでのデータ転送処理はオフィスコンピューターのソフトウェアが制御するようになります。

Trimble の非タブレット型コントローラでは、以下を使用してファイルを転送できます：

- Trimble Data Transfer(データ転送) ユーティリティと、使用可能な Microsoft ActiveSync / Windows Mobile Device Center ソフトウェア
- Microsoft エクスプローラと、使用可能な Microsoft ActiveSync / Windows Device Center ソフトウェア

Trimble Tablet コントローラでは、以下を使用してファイルを転送できます：

- [AccessSync を使用した Trimble Connected Community エクスプローラ](#)
- [Trimble TabletSync](#)
- Trimble Tablet をネットワークに追加
 - ネットワーク/インターネット接続:
 - Wi-Fi
 - USB アダプタまたはドッキングステーションを使用したイーサネットケーブル
 - Bluetooth、USB、またはエクスプレスカードによるセルラーモデム接続
- [USB メモリスティック](#)

TabletSync を使用して Trimble Tablet コントローラをオフィスコンピューターに接続

TabletSync を使用すると、Trimble Tablet を Trimble Business Center や Office Synchronizer を搭載しているホストコンピューターに接続することができます。TabletSync は、初めて Trimble Access を Trimble Tablet にインストールする際にインストールされます。TabletSync を使用するにはまず設定を行なって下さい。

メモ – 以下の手順は、Trimble Tablet にインストールされた TabletSync を初めて設定する場合の手順です。もしすでに設定が済んでおり、その設定を変更する場合は、[TabletSync の設定後の変更](#) をご参照下さい。

TabletSync の設定方法は以下の通りです:

1. Trimble Tablet で TabletSync プログラムを開きます。The first time you open the program, the *Device Setup* dialog displays.
2. 全てのフィールドに入力します:
 - 「デバイス名」 – Trimble Tablet コンピュータ名を入力します
 - 「現場作業員名」 – このフィールドはオプションです。
 - 「ホスト PC 上の Synchronizer ルートフォルダ」 – ホストコンピュータ、またはホストコンピュータがネットワークを介してアクセス可能な別のコンピュータへのパスを全て入力します (例 C:¥Trimble Synchronizer Data)。


本デバイス用フォルダのフィールドは、前のフィールドに入力したパスとデバイスの名前のついた新しいサブフォルダを表示します (例 C:¥Trimble Synchronizer Data¥Device 01)。

メモ – Office Synchronizer を使用するにはルートフォルダのパスを指定する必要があります。

Trimble Tablet にすでにインストールされている Trimble Access プログラムが「インストールされているアプリケーション」リストに表示されます。

3. 「OK」をクリックします。

Trimble Tablet 用に新しく入力された名前は、TabletSync ウィンドウの「デバイス名」フィールドに表示されます。

4. TabletSync ウィンドウで  ボタンをクリックします。
5. 「ホスト名を入力」ダイアログで、ホストコンピュータ名を入力します。なお、ホスト名は大文字小文字を区別します。

ホストコンピュータの「スタート」メニューの「コンピュータ」、または「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択して、ホストコンピュータ名を設定することができます。

6. 「OK」をクリックします。

名前が TabletSync ウィンドウの「ホストリスト」に追加されました。これで、Trimble Tablet をホストコンピュータに接続する準備ができました。

Trimble Tablet の接続・切断:

Trimble Tablet を接続したり、切断したりする前に、前節の手順に従って必ず Trimble Tablet 上の TabletSync を設定し、正しいホスト名を TabletSync ウィンドウの「ホストリスト」から選んで下さい。

メモ – オフィスコンピュータのオペレーティングシステムが Windows XP で、Trimble Office Synchronizer または Trimble Business Center を実行している場合は、決められた手順で設定を行なう必要があります。詳しくは、Trimble Business Center のヘルプをご参照下さい。

Trimble Tablet の接続または切断を行なうには:

1. Trimble Business Center や Office Synchronizer がホストコンピュータ上で実行されていることを確認します。
2. Trimble Tablet をホストコンピュータが接続されているネットワークに接続します。
3. タブレットコンピュータの TabletSync プログラムを開き、「ホストリスト」から適切なホストを選びます。選択されたホストコンピュータがネットワーク上で検出されると、「接続ボタン」が有効になります。
4. 「接続」ボタンをクリックします。接続が完了すると、「(ホスト名)に接続しました」というメッセージがステータスバーに表示されます。
5. Trimble Business Center や Office Synchronizer を使用して Trimble Tablet とホストコンピュータ間でデータを転送したり、同期したりします。
6. 終了するときは、「切断ボタン」をクリックします。

初めて設定を行なった後に、TabletSync を再設定する

TabletSync は、最初に行なった設定を変更し、再設定することができます。Trimble Tablet 上で TabletSync を開き、必要に応じて変更を行ないます (例えば、別のホストコンピュータ名を選ぶ、または入力する、など)。

Trimble Tablet がホストコンピュータに接続されている場合は、Office Synchronizer プログラムを使用して設定することもできます。Office Synchronizer ウィンドウから「ツール / デバイスのセットアップ」を選択します。

USB メモリスティックを使用して Trimble Tablet コントローラとの間でファイルを送受信

USB メモリスティックを使用して 1 台のコンピュータから別のコンピュータにファイルを移すことができます。メモリスティックはフラッシュドライブとも呼ばれ、Trimble Tablet の USB ポートに差し込んで使います。Trimble Access メニューから「ファイル」をタップし、「ファイルエクスプローラ」にアクセスしてファイルをメモリスティックへ、またはメモリスティックからコピーします。

ヒント – Trimble Tablet のデータはフォルダ C:\ProgramData\Trimble\Trimble Data に保存されています。

その他の Trimble ソフトウェアパッケージを使用しても Trimble コントローラとのデータ転送ができます。詳細については、Trimble オフィスソフトウェアと一緒に提供されたヘルプを参照してください。

Microsoft ActiveSync を使用して Trimble の非タブレット型コントローラをオフィスコンピュータに接続

一般測量ソフトウェアとオフィスコンピュータ間で一般測量ファイルを転送するには、Microsoft ActiveSync をゲストまたはパートナー関係接続で使用する必要があります。

メモ - LAN(ローカルエリアネットワーク)を使用して接続するには、パートナー関係を生成する必要があります。パートナー関係を作成するには、シリアルケーブルや USB、赤外線接続を使用してオフィスコンピュータにコントローラを接続する必要があります。

接続を設立するには、

1. Trimble コントローラとオフィスコンピュータに電源が入っていることを確認します。通信ポートが使用可能であることを確実にするために、Trimble コントローラと通信しているすべての装置の接続を切断し、すべてのアプリケーションを終了します。
2. オフィスコンピュータで、「スタート / プログラム / Microsoft ActiveSync」を選択して、ActiveSync を起動します。

これを行う必要があるのは、初回設定時だけです。次回からは Microsoft ActiveSync が自動的に起動します。

3. Microsoft ActiveSync で、「ファイル / 接続設定」を選択して、接続方法を設定します。「シリアル」または「赤外線」に対する適切なオプションを選択して、通信ポートまたは USB、ネットワークを指定します。
4. Trimble コントローラをオフィスコンピュータに接続します。以下の方法の1つを使用します。
 - シリアルケーブル
 - USB ケーブル(マルチポートアダプタ使用)
 - ネットワーク(イーサネット)カード(マルチポートアダプタ使用)
 - 赤外線(コントローラがそれをサポートする場合)
 - ドッキングステーション(オフィスコンピュータに USB 接続。Trimble CU 使用時のみ。)
 - Bluetooth ワイヤレス機能
5. Windows タスクバー上の Microsoft ActiveSync アイコンが回転し始め、Trimble コントローラはメッセージ「デスクトップに接続します。」を表示します。「はい」をタップします。
6. Trimble コントローラにメッセージが表示されず、Microsoft ActiveSync アイコンが回転しない場合、接続に問題があります。Microsoft ActiveSync ソフトウェアの接続設定が正しいことと、他のアプリケーションが Trimble コントローラの COM ポートを使用していないことを確認します。

コントローラが接続に失敗した場合には、接続がビジーであるというメッセージが現れることがあります。または、接続できなかったことを知らせる「エラー678」メッセージが現れることもあります。コントローラに接続されているケーブルを外して、ソフトリセットを行ってから、ケーブルを接続し直します。ケーブルが再び接続されると、「デスクトップに接続します。」メッセージが現れます。「はい」を選択して接続します。

ソフトリセットの実行方法については、[ソフトリセットの実行](#) をご参照ください。

このコンピュータとコントローラの間でまだパートナー関係を作成していない場合には、接続過程で Microsoft ActiveSync 接続ウィザードが表示され、その設定を求めます。パートナー関係の作成は絶対必要ということではありませんが、以下の表で示されるようにいくつかの利点があります。

接続タイプ	利点	不利点
ゲスト	初回接続時に答える必要のある質問が少なく済む	2 回目以降の接続に時間が掛かる (パートナー関係を求める接続よりも手順が1つ

	安全度が高い（同期化がコントローラまたは PC 上のデータに悪影響を与えないため） 借りた、または共有のコンピュータの使用時に適す	多い) LAN 接続に対応なし
パート ナー関 係	2 回目以降の接続が速い（接続時の手順が1つ少ない） パートナー関係が一度設立されると、LAN（最も速い接続方法）経由でオフィスコンピュータに接続可能。 コントローラの時計は、オフィスコンピュータの時計と一致するように調整される。	初回接続時に答える必要のある質問が多い コントローラは同期化をサポートしない。 オフィスコンピュータの時間が正しくない場合、コントローラも誤った時間を示すようになる。 コントローラでハードリセットを行うと、パートナー関係が削除されてしまう。

パートナー関係を作成するには、

1. 「新しいパートナー」ダイアログで「はい」、そして「次」を選択します。
2. このコンピュータとのパートナー関係を1つだけ許容するには、「はい」、そして「次」を選択します。
3. 同期設定を選択します。すべてのチェックボックスからチェックマークを外すことをお勧めします。「次」を選択して継続します。
4. 設定は完了しました。「終了」を選択して、ウィザードを終了します。これで ActiveSync 接続は完成し、パートナー関係が設立されました。

Trimble Data Transfer(データ転送) を使用して一般測量 ファイルを転送するには、[Trimble Data Transfer\(データ転送\) ユーティリティの使用](#) の項を参照してください。

詳細については、Microsoft ActiveSync のヘルプを参照してください。オフィスコンピュータからは「スタート / プログラム / Microsoft ActiveSync」をクリックします。

注 - Microsoft ActiveSync が使用可能状態になっているとき、それがコンピュータの通信ポートを制御します。そのために他のアプリケーションは通信ポートを使用できません。一般測量ソフトウェアまたは Trimble GNSS 受信機の以前のバージョンとファイルを転送するには、Microsoft ActiveSync で「接続設定」を設定し直して、必要な通信ポートを使用できるようにします。その後で Trimble データ転送ユーティリティを直接使用します。

Microsoft Mobile Device Center を使用して Trimble の非タブレット型コントローラをオフィスコンピュータに接続

接続を設立するには、

1. Trimble コントローラとオフィスコンピューターに電源が入っていることを確認します。
通信ポートが使用可能であることを確実にするために、Trimble コントローラと通信しているすべての装置の接続を切断し、すべてのアプリケーションを終了します。
2. Trimble コントローラをオフィスコンピューターに接続します。以下の方法の1つを使用します。
 - シリアルケーブル
 - USB ケーブル(マルチポートアダプタ使用)
 - ネットワーク(イーサネット)カード(マルチポートアダプタ使用)
 - 赤外線(コントローラがそれをサポートする場合)
 - ドッキングステーション(オフィスコンピューターに USB 接続。Trimble CU 使用時のみ。)
 - Bluetooth ワイヤレス機能

オフィスコンピューターが自動的に接続し、Windows Mobile device Center ホームページが表示されます。

3. **デバイスをセットアップせずに接続する** を選択します。

Trimble Data Transfer(データ転送)を使用して一般測量 ファイルを転送するには、[Trimble Data Transfer\(データ転送\) ユーティリティの使用](#) の項を参照してください。

詳細については、Microsoft Mobile Device Center のヘルプを参照してください。オフィスコンピューターからは「スタート / プログラム / Microsoft Mobile Device Center」をクリックします。

Bluetooth を使用して Trimble の非タブレットコントローラをオフィスコンピューターに接続

Bluetooth のワイヤレス技術を使用して、Trimble の非タブレット型コントローラとオフィスコンピューターの接続を確立すると、Bluetooth と Trimble データ転送ユーティリティ、あるいは Microsoft ActiveSync や Windows Mobile Device Center を使用してファイルを転送できるようになります。

接続をセットアップするには、

- [Bluetooth ソフトウェアのインストールと設定](#)
- [Bluetooth が使用できるよう Microsoft ActiveSync を設定](#)
- [Bluetooth が使用できるよう Windows Mobile Device Center を設定](#)
- [Trimble CU \(Model 3\) を設定し、Bluetooth ワイヤレス機能と Microsoft ActiveSync を使用して接続](#)
- [Trimble CU \(Model 3\) を設定し、Bluetooth ワイヤレス機能と Windows Mobile Device Center を使用して接続](#)
- [Trimble CU を設定し、Bluetooth ワイヤレス機能と Microsoft ActiveSync を使用して接続](#)
- [Trimble CU を設定し、Bluetooth ワイヤレス機能と Windows Mobile Device Center を使用して接続](#)
- [TSC3/TSC2/Geo7X/GeoXR/Slate を設定し、Bluetooth ワイヤレス機能と ActiveSync を使用して接続](#)
- [TSC3/TSC2/Geo7X/GeoXR/Slate コントローラを設定し、Bluetooth ワイヤレス機能と Windows Mobile Device Center を使用して接続](#)

Bluetooth ソフトウェアのインストールと設定

Bluetooth ハードウェアのソフトウェアやドライバーのインストール・設定は、その Bluetooth 製造者によって異なります。下記の手順は一般的なもので、多くの Bluetooth 装置に適用できるはずですが。

1. Bluetooth 製造者の指示に従って、Bluetooth 装置用のソフトウェアとドライバーをインストールします。

オフィスコンピュータがワイヤレス Bluetooth を内蔵している場合には、下記の手順に従ってください。

- a. 「スタート / プログラム / ソフトウェアセットアップ」を選択します。
- b. 「Hardware Enabling Drivers」のツリー構造を広げます。そこで「Bluetooth」が選択されていることを確認し、その他の選択をすべて取り消します。
- c. 「Software Applications」のチェックボックスからチェックマークを外します。
- d. 「Next」を選択して、インストールを完了します。

外部 USB Bluetooth 装置(TDK Systems、または Cambridge Silicon Radio 社製の DSE Bluetooth ドングルなど)をお持ちの場合には、提供された CD と指示を参照してください。

2. インストール作業中に、Bluetooth ドングルに接続するように求められるはずですが。まだそれを行っていない場合には、その時点で dongle をオフィスコンピュータに接続します。
3. ソフトウェアのインストール後に指示に従って、システムを再起動します。
4. Bluetooth 装置に割り当てた COM ポートを確認します。

- a. ソフトウェアがインストールされると、Bluetooth のアイコンがオフィスコンピュータのシステムトレイに表示されるようになります。その Bluetooth アイコンを右クリックします。
- b. 「Advanced Configuration」を選択します。「Local Services」タブで、「Bluetooth Serial Port」(Bluetooth シリアルポート)サービスに割り当てられている COM ポートをメモしておきます。この COM ポートを Microsoft ActiveSync と一緒に使用できるように設定する必要があります。

または、「スタート / プログラム / My Bluetooth Places」を選択してから、「My Device / My Bluetooth Serial Port / Properties」を選択します。

これで Bluetooth 装置がオフィスコンピュータの COM ポートであるかのように設定されました。

メモ — Bluetooth ソフトウェアのインストールに管理者権を必要とすることがあります。

Bluetooth が使用できるように Microsoft ActiveSync の設定変更

1. コントローラとオフィスコンピュータと通信している装置すべてを切断します。
2. ActiveSync を起動します。オフィスコンピュータで、「スタート / プログラム / Microsoft ActiveSync」を選択します。
3. 接続方法を設定します。Microsoft ActiveSync で「ファイル / 接続の設定」を選択します。
 - a. 「この COM ポートへのシリアルケーブルまたは赤外線接続を可能にする」チェックボックスにチェックマークを入れます。
 - b. メモしておいた Bluetooth ドングルに割り当てられている COM ポート番号(例、COM7)を選択します。

接続の設定は一度しか行う必要がありません。次回からは、Microsoft ActiveSync が自動的に起動します。

4. 「OK」をクリックして、「接続の設定」ダイアログを終了します。

メモ – ActiveSync 機能などのアプリケーションを COM ポートに割り当てる方法は、コンピュータのメーカーによって異なる場合があります。

Bluetooth が使用できるように Windows Mobile Device Center の設定変更

1. コントローラとオフィスコンピュータと通信している装置すべてを切断します。
2. Windows Mobile Device Center を起動します。オフィスコンピュータで、「スタート / プログラム / Windows Mobile Device Center」を選択します。
3. 接続方法を設定します。Windows Mobile Device Center で「モバイルデバイス設定 / 接続の設定」を選択します。
4. 「以下のうちのいずれかへの接続を可能にする」チェックボックスにチェックマークを入れ、Bluetooth を選択します。

接続の設定は一度しか行う必要がありません。次回からは、Windows Mobile Device Center が自動的に起動します。

5. 「OK」をクリックして、「接続の設定」ダイアログを終了します。

メモ – Windows Mobile Device Center 機能などのアプリケーションを COM ポートに割り当てる方法は、コンピュータのメーカーによって異なる場合があります。

Trimble CU (Model 3) を設定し、Bluetooth ワイヤレス機能と Microsoft ActiveSync を使用して接続

コントローラとオフィスコンピュータ間の Bluetooth 接続は、コントローラが開始します。

1. Trimble CU (Model 3) が Windows CE バージョン 6.0 オペレーティング・システムで動作している場合、まず USB ケーブルによる ActiveSync 接続を使ってオフィス・コンピュータとのパートナーシップを確立します。
2. オフィスコンピュータで ActiveSync COM ポートを設定し、Bluetooth 用に割り当てます。これを行うには、[Install and Configuring the Bluetooth software \(Bluetooth ソフトウェアのインストールと設定\)](#) または [Configuring Microsoft ActiveSync to use Bluetooth \(Microsoft ActiveSync を設定して Bluetooth を使用する\)](#) をご参照ください。
3. コントローラで「Start / Settings / Control Panel / Bluetooth Device Properties」をタップします。
4. 「Power」タブをタップしてから、「Enable Bluetooth」(Bluetooth 有効化) チェックボックスで有効にします。
5. 「Configuration」(設定) タブをタップして、「Do not query device services」チェックボックスにチェックマークを入れます。

近隣にある装置すべては通常のスキャンで見つけることができます。SDP Service Discovery を使用している場合、コントローラは Bluetooth 装置を見つけると、サポートするサービスはどれかをその装置に質問し、答えを入手します。

6. 「Scan Device」タブをタップします。
7. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「Scan」をタップします。

コントローラがスキャンを終了すると、見つかった Bluetooth サービスは、スクリーンの左の「Untrusted」(信頼しない)リストに表示されます。

8. 青い ActiveSync ロゴの Bluetooth 装置と、使用中のオフィスコンピュータの名前を反転表示します。そのコンピュータを信頼できる装置にするには、→ ソフトキーをタップします。
9. 承認メッセージが現れたら「Yes」をタップします。Trimble CU (Model 3) とオフィスコンピュータで暗証番号を促されたら、適切な PIN 番号を入力します。
10. 信頼する装置を使用可能にするには、装置名をダブルタップして、「Active」を選択します。
11. 承認過程をオフにするには、装置名をダブルタップして「Authenticate」オプションの選択を取り消します。この手順の実行は任意です。
12. 「OK」をタップして、Bluetooth マネージャを終了します。
13. コントロールパネルから、「PC Connection」(PC 接続)をダブルタップします。「Connect using」(接続方法)が USB になっていたら、「Change...」(変更)をタップして「Bluetooth」を選択します。「OK」をタップし、もう一度「OK」をタップして終了します。
14. 「Start/Run」(スタート/起動)をタップします。「Open」(開く)フィールドで「repllog」と入力して「OK」をタップします。

コントローラがオフィスコンピュータに接続すると、Trimble データ転送や Microsoft ActiveSync を使用してファイルを転送できるようになります。

Trimble CU (Model 3) コントローラを設定し、Bluetooth ワイヤレス機能と Windows Mobile Device Center を使用して接続

コントローラとオフィスコンピュータ間の Bluetooth 接続は、コントローラが開始します。

1. Trimble CU (Model 3) が Windows CE バージョン 6.0 オペレーティング・システムで動作している場合、まず USB ケーブルによる ActiveSync 接続を使ってオフィス・コンピュータとのパートナーシップを確立します。
2. Bluetooth 接続をオフィスコンピュータでセットアップします。[Bluetooth ソフトウェアのインストールと設定](#)、および [Windows Mobile Device Center を設定して Bluetooth を使用する](#) をご参照下さい。
3. コントローラで「Start / Settings / Control Panel / Bluetooth Device Properties」をタップします。
4. 「Power」タブをタップしてから、「Enable Bluetooth」(Bluetooth 有効化)チェックボックスで有効にします。
5. 「Configuration」(設定) タブをタップして、「Do not quert device services」チェックボックスにチェックマークを入れます。

近隣にある装置すべては通常のスキャンで見つけることができます。SDP Service Discovery を使用している場合、コントローラは Bluetooth 装置を見つけると、サポートするサービスはどれかをその装置に質問し、答えを入手します。

6. 「Scan Device」タブをタップします。
7. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「Scan」をタップします。

コントローラがスキャンを終了すると、見つかった Bluetooth サービスは、スクリーンの左の「Untrusted」(信頼しない)リストに表示されます。

8. 青い ActiveSync ロゴの Bluetooth 装置と、使用中のオフィスコンピュータの名前を反転表示します。そのコンピュータを信頼できる装置にするには、←→ ソフトキーをタップします。
9. 承認メッセージが現れたら「Yes」をタップします。TrimbleCU とオフィスコンピュータで暗証番号を促されたら、それぞれに同じ PIN 番号を入力し、OK をクリックします。
10. 信頼する装置を使用可能にするには、装置名をダブルタップして、「Active」を選択します。
11. 承認過程をオフにするには、装置名をダブルタップして「Authenticate」オプションの選択を取り消します。この手順の実行は任意です。
12. 「OK」をタップして、Bluetooth マネージャを終了します。
13. コントロールパネルから、「PC Connection」(PC 接続)をダブルタップします。「Connect using」(接続方法)が USB になっていたら、「Change...」(変更)をタップして「Bluetooth」を選択します。「OK」をタップし、もう一度「OK」をタップして終了します。。
14. 「Start/Run」(スタート/起動)をタップします。「Open」(開く)フィールドで「repllog」と入力して「OK」をタップします。

コントローラがオフィスコンピュータに接続すると、Trimble データ転送や Windows Mobile Device Center を使用してファイルを転送できるようになります。

Trimble CU を設定し、Bluetooth ワイヤレス機能と Microsoft ActiveSync を使用して接続

コントローラとオフィスコンピュータ間の Bluetooth 接続は、コントローラが開始します。

1. USB ケーブルによる ActiveSync 接続を使ってオフィス・コンピュータとのパートナーシップを確立します。
2. オフィスコンピュータで ActiveSync COM ポートを設定し、Bluetooth 用に割り当てます。これを行うには、[Install and Configuring the Bluetooth software \(Bluetooth ソフトウェアのインストールと設定\)](#) または [Configuring Microsoft ActiveSync to use Bluetooth \(Microsoft ActiveSync を設定して Bluetooth を使用する\)](#) をご参照ください。
3. スキャンの準備をするには:
 - コントローラで「Start / Settings / Control Panel / Bluetooth Device Properties」をタップします。
 - まだ Bluetooth が有効になっていない場合は、「Enable Bluetooth」チェックボックスで有効にします。
 - 「Configuration」タブをタップして、「Perform SDP On Scan」チェックボックスにチェックマークを入れます。

近隣にある装置すべては通常のスキャンで見つけることができます。SDP Service Discovery を使用している場合、コントローラは Bluetooth 装置を見つけると、サポートするサービスはどれかをその装置に質問し、答えを入手します。

4. 「Scan Device」タブをタップします。
5. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「デバイスをスキャンする」をタップします。

コントローラがスキャンを終了すると、見つかった Bluetooth サービスは、スクリーンの左の「Untrusted」(信頼しない)リストに表示されます。

6. 青い ActiveSync ロゴの Bluetooth 装置と、使用中のオフィスコンピュータの名前を反転表示します。そのコンピュータを信頼できる装置にするには、→ ソフトキーをタップします。
7. 承認メッセージが現れたら「Yes」をタップします。TrimbleCU とオフィスコンピュータで暗証番号を促されたら、適切な PIN 番号を入力します。
8. 信頼する装置を使用可能にするには、装置名をダブルタップして、「Active」を選択します。
9. 承認過程をオフにするには、装置名をダブルタップして「Authenticate」オプションの選択を取り消します。この手順の実行は任意です。
10. 「OK」をタップして、Bluetooth マネージャを終了します。
11. コントローラをオフィスコンピュータに接続するには、「Start / Programs / Utilities / ActiveSync」をタップします。

「No Partnerships (パートナーシップ関係がありません)」というエラーメッセージが現れたら、USB を使用してコントローラとオフィスコンピュータを接続し、[パートナーシップ関係](#) を作成します。USB ケーブルを外した後、手順 1 からもう一度繰り返します。

12. オフィスコンピュータへの接続方法を「Bluetooth」に設定します。「Connect to」(接続先)がオフィスコンピュータの名前に設定されていることを確認します。
13. 「Connect」(接続)をタップします。コントローラがオフィスコンピュータと通信を始めます。

コントローラがオフィスコンピュータに接続すると、Trimble データ転送や Microsoft ActiveSync を使用してファイルを転送できるようになります。

Trimble CU を設定し、Bluetooth と Windows Mobile Device Center を使用して接続

コントローラとオフィスコンピュータ間の Bluetooth 接続は、コントローラが開始します。

1. USB ケーブルによる ActiveSync 接続を使ってオフィス・コンピュータとのパートナーシップを確立します。
2. オフィスコンピュータ上で Bluetooth をセットアップします。[Bluetooth ソフトウェアのインストールと設定](#)、および [Windows Mobile Device Center を設定して Bluetooth を使用する](#) をご参照下さい。
3. スキャンの準備をするには:
 - コントローラで「Start / Settings / Control Panel / Bluetooth Device Properties」をタップします。
 - まだ Bluetooth が有効になっていない場合は、「Enable Bluetooth」チェックボックスで有効にします。
 - 「Configuration」タブをタップして、「Perform SDP On Scan」チェックボックスにチェックマークを入れます。

近隣にある装置すべては通常のスキャンで見つけることができます。SDP Service Discovery を使用している場合、コントローラは Bluetooth 装置を見つけると、サポートするサービスはどれかをその装置に質問し、答えを入手します。

4. 「Scan Device」タブをタップします。
5. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「デバイスをスキャンする」をタップします。

コントローラがスキャンを終了すると、見つかった Bluetooth サービスは、スクリーンの左の「Untrusted」(信頼しない)リストに表示されます。

6. 青い ActiveSync ロゴの Bluetooth 装置と、使用中のオフィスコンピュータの名前を反転表示します。そのコンピュータを信頼できる装置にするには、←→ ソフトキーをタップします。
7. 承認メッセージが現れたら「Yes」をタップします。TrimbleCU とオフィスコンピュータで暗証番号を促されたら、それぞれに同じ PIN 番号を入力し、OK をクリックします。
8. 信頼する装置を使用可能にするには、装置名をダブルタップして、「Active」を選択します。
9. 承認過程をオフにするには、装置名をダブルタップして「Authenticate」オプションの選択を取り消します。この手順の実行は任意です。
10. 「OK」をタップして、Bluetooth マネージャを終了します。
11. コントローラをオフィスコンピュータに接続するには、「Start / Programs / Utilities / ActiveSync」をタップします。

「No Partnerships (パートナーシップ関係がありません)」というエラーメッセージが現れたら、USB を使用してコントローラとオフィスコンピュータを接続し、[パートナーシップ関係](#)を作成します。USB ケーブルを外した後、手順 1 からもう一度繰り返します。

12. オフィスコンピュータへの接続方法を「Bluetooth」に設定します。「Connect to」(接続先)がオフィスコンピュータの名前に設定されていることを確認します。
13. 「Connect」(接続)をタップします。コントローラがオフィスコンピュータと通信を始めます。

コントローラがオフィスコンピュータに接続すると、Trimble データ転送や Windows Mobile Device Center を使用してファイルを転送できるようになります。

TSC3/TSC2/Geo7X/GeoXR/Slate を設定し、Bluetooth 技術を使用して Microsoft ActiveSync に接続

注意 - TrimbleGNSS 受信機とペアにする 前に 必ずオフィスコンピュータとペアにしてください。もし Trimble GNSS 受信機と既にペアにしてしまった場合は、TSC22を、ActiveSync サービスが利用できる接続として表示される前に、必ず工場出荷時状態にリセットしてください。リセットしたら、コントローラの全てのソフトウェアを再びインストールする必要があります。

コントローラとオフィスコンピュータ間の Bluetooth 接続は、コントローラが開始します。

1. オフィスコンピュータで ActiveSync COM ポートを Bluetooth に用に設定し、割り当てます。これを行うには、[Installing and Configuring the Bluetooth software](#) または [Configuring Microsoft ActiveSync to use Bluetooth](#) をご参照ください。
2. スキャンを実行するには:
 - Trimble Slate コントローラ/TSC3 コントローラで:
 - a. Windows のスタートボタンを押してスタートメニューにアクセスし、「Setting / Settings / Bluetooth」をタップします。
 - b. 「Mode (モード)」タブをタップして、「Turn on Bluetooth (Bluetooth をオンにする)」チェックボックスにチェックマークを入れます。

- c. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「Devices (装置)」タブで「Add new device (新しい装置の追加)」をタップします。
- o. TSC2 コントローラで:
 - a. コントローラで「Start / Settings / Connections / Bluetooth」をタップします。
 - b. 「Mode (モード)」タブをタップして、「Turn on Bluetooth (Bluetooth をオンにする)」チェックボックスにチェックマークを入れます。
 - c. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「Devices (装置)」タブで「New Partnership (新しいパートナーシップ)」をタップします。
- o. Geo7X/GeoXR コントローラで:
 - a. Windows のスタートボタンを押してスタートメニューにアクセスし、「Settings / Bluetooth」をタップします。
 - b. 「Mode (モード)」タブをタップして、「Turn on Bluetooth (Bluetooth をオンにする)」チェックボックスにチェックマークを入れます。
 - c. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「Devices (装置)」タブで「Add new device (新しい装置の追加)」をタップします。

コントローラがスキャンを終了すると、見つかった Bluetooth サービスが表示されます。

3. 使用中のオフィスコンピュータの名前を伴う Bluetooth 装置を反転表示して「Next」をタップします。
4. 承認メッセージが現れたら、パスキーを入力してオフィスコンピュータとの安全な接続を確立します。「次へ」をタップします。オフィスコンピュータに促されたら、同じパスキーを入力して OK をクリックします。
5. 「Activesync」サービスのチェックボックスにチェックが入っていることを確認してから、「Finish」をタップします。
6. 「OK」をタップして、Bluetooth マネージャを終了します。
7. コントローラをオフィスコンピュータに接続するには、「Start / Programs / ActiveSync」をタップします。
8. 「Menu」をタップしてから、「Connect via Bluetooth (Bluetooth で接続)」をタップします。
9. Microsoft ActiveSync が起動して、新しいパートナーシップ関係を設定するように指示します。(それがまだ存在しない場合) [パートナーシップ関係](#) 作成にはウィザードの手順に従ってください。

コントローラがオフィスコンピュータに接続すると、Trimble データ転送や Microsoft ActiveSync を使用してファイルを転送できるようになります。

TSC3/TSC2/Geo7X/GeoXR/Slate を設定し、Bluetooth 技術を使用して Windows Device Center に接続

コントローラとオフィスコンピュータ間の Bluetooth 接続は、コントローラが開始します。

1. Bluetooth をオフィスコンピュータ上でセットアップします。[Bluetooth ソフトウェアのインストールと設定](#)、および [Windows Mobile Device Center を設定して Bluetooth を使用する](#) をご参照下さい。
2. スキャンを実行するには:
 - Trimble Slate コントローラ/TSC3 コントローラで:
 - a. Windows のスタートボタンを押してスタートメニューにアクセスし、「Setting(設定) / Settings / Bluetooth」をタップします。
 - b. 「Mode(モード)」タブをタップして、「Turn on Bluetooth(Bluetooth をオンにする)」チェックボックスにチェックマークを入れます。
 - c. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「Devices(装置)」タブで「Add new device(新しい装置の追加)」をタップします。
 - TSC2 コントローラで:
 - a. コントローラで「Start / Settings / Connections / Bluetooth」をタップします。
 - b. 「Mode(モード)」タブをタップして、「Turn on Bluetooth(Bluetooth をオンにする)」チェックボックスにチェックマークを入れます。
 - c. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「Devices(装置)」タブで「New Partnership(新しいパートナーシップ)」をタップします。
 - Geo7X/GeoXR コントローラで:
 - a. Trimble ボタンを押してスタートメニューにアクセスし、「Settings / Bluetooth」をタップします。
 - b. 「Mode(モード)」タブをタップして、「Turn on Bluetooth(Bluetooth をオンにする)」チェックボックスにチェックマークを入れます。
 - c. 使用可能な Bluetooth 装置すべてをスキャンするには、「Devices(装置)」タブで「Add new device(新しい装置の追加)」をタップします。

コントローラがスキャンを終了すると、見つかった Bluetooth サービスが表示されます。

3. 使用中のオフィスコンピュータの名前を伴う Bluetooth 装置を反転表示して「Next」をタップします。
4. 承認メッセージが現れたら、パスキーを入力してオフィスコンピュータとの安全な接続を確立します。「次へ」をタップします。オフィスコンピュータに促されたら、同じパスキーを入力して OK をクリックします。
5. オフィスコンピュータの名前を長押ししてから「Connection」を選択します。
6. 「OK」をタップして、Bluetooth マネージャを終了します。
7. Windows Mobile Device Center が起動します。「Connect without setting up a device」をタップします。

コントローラがオフィスコンピュータに接続すると、Trimble データ転送や Windows Mobile Device Center を使用してファイルを転送できるようになります。

ヒント - または、オフィスコンピュータにコントロールを接続するには、「Start / Programs / ActiveSync」をタップします。「Menu」、そして「Connect via Bluetooth」をタップします。

TSC3/TSC2/Geo7X/GeoXR/Slate の Wi-Fi 機能の設定

以下の手順は、Wi-Fi ワイヤレスネットワークがオフィス内に既にセットアップされていると仮定したものです。

ワイヤレス暗号化プロトコル(WEP)ネットワークキーなどに関してはネットワーク管理者にお問い合わせください。

1. Wi-Fi 無線機がオンになっていることを確認します。
 - Trimble Slate コントローラ/TSC3 コントローラで:
 1. Windows のスタートボタンを押してスタートメニューにアクセスし、「Settings (設定) / Connections (接続) / Wi-Fi - Menu」をタップします。
 2. 無線機をオンにするには、「Turn On Wi-Fi」をタップします。メニューオプションが「Turn Off Wi-Fi」を表示している場合、それは無線機が既にオンになっていることを意味します。
 - TSC2 コントローラで:
 1. 「Start / Settings」をタップし、「Connection」タブの「Wireless Manager」をタップします。
 2. 無線機をオンにするには、「Wi-Fi」ボタンをタップし、「Available」を表示するようにします。メニューオプションが「Off」を表示している場合、それは無線機が既にオンになっていることを意味します。
 - Geo7X/GeoXR コントローラで:
 1. Trimble ボタンを押してスタートメニューをタップしてから、「Settings / Connections / Wi-Fi Manager」をタップします。
 2. 無線機をオンにするには、「Wi-Fi」ボタンをタップし、「Available」を表示するようにします。メニューオプションが「Off」を表示している場合、それは無線機が既にオンになっていることを意味します。
2. ワイヤレスネットワークで WEP がオンになっていると、「Network Key」(ネットワークキー)の入力を求められます。

このキーに関しては、オフィスのネットワーク管理者にお問い合わせください。
3. ワイヤレスネットワークに接続すると、ネットワークへのログイン情報(ユーザー名やパスワード、ドメインなど)を求められることがあります。ネットワークに接続するときと同じ情報をここで入力してください。
4. ワイヤレスネットワークに接続できるけれども、ネットワークリソースにアクセスできない場合、接続に関する一般的な情報に関しては「Advanced / Network Troubleshooting」をご参照ください。それより高度な情報が必要な場合には「More Info」を選択してください。

これでコントローラがネットワークに接続できるようになりました。

メモ — Trimble の非タブレット型コントローラは、Wi-Fi、Microsoft ActiveSync、または Windows Mobile Device Center を使用するファイル転送をサポートしません。

Trimble Data Transfer(データ転送)ユーティリティの使用

Trimble Data Transfer(データ転送)ユーティリティを使用して、一般測量とオフィスコンピューター間でファイルを転送できます。

Trimble Data Transfer を使用してファイルを転送するには

1. 一般測量 にファイルを転送するには、その前に Microsoft ActiveSync / Windows Mobile Device Center を使用してコントローラをオフィスコンピューターに接続する必要があります。詳細については、[Microsoft ActiveSync を使用してコントローラをオフィスコンピューターに接続](#)、または [Windows Mobile Device Center を使用してコントローラをオフィスコンピューターに接続](#) をご参照下さい。
2. オフィスコンピューターで Data Transfer ユーティリティを起動します。
3. Data Transfer 内の装置設定が正しいことを確認します。例、「ActiveSync 上の 一般測量」接続するには「接続」ボタンを選択します。
既定装置が正しく設定されていると接続過程は自動に行われます。
4. 「受信」または「送信」のどちらか適切なタブを選択します。
5. 「追加」を選択します。
6. 「開く」ダイアログで、ファイルタイプに適切なオプションを設定して、転送するファイルを選択します。
7. 「すべて転送」を選択して、ファイル転送を開始します。

Data Transfer(データ転送)に関する更に詳しい情報には、Data Transfer ヘルプを参照してください。

Microsoft エクスプローラを、使用可能な状態にある Microsoft ActiveSync / Windows Mobile Device Center ソフトウェアと一緒に使用

Microsoft エクスプローラと ActiveSync / Windows Mobile Device Center ソフトウェアを使用して、Trimble コントローラとの間でファイルを移動・コピーできます。ソフトウェアを使用して、Data Transfer(データ転送)による [変換](#) を必要としないファイルを転送します。(例、カンマ区切り(.csv)ファイル) 下の表を参照してください。

一般測量 にファイルを転送するには、その前に Microsoft ActiveSync、または Windows Mobile Device Center を使用してコントローラをオフィスコンピューターに接続する必要があります。詳細については、[Microsoft ActiveSync を使用してコントローラをオフィスコンピューターに接続](#)、または [Windows Mobile Device Center を使用してコントローラをオフィスコンピューターに接続](#) を参照してください。

Microsoft ActiveSync を使用した接続

接続後、Microsoft ActiveSync のウィンドウから、

1. 情報を共有するには、「検索」をクリックしてオフィスコンピューターと Trimble コントローラ間でファイルを移動・コピーします。または、Windows エクスプローラを使用して、ファイルを移動・コピーします。

2. 「ツール」をクリックして、ファイルをバックアップ・修復します。

Microsoft ActiveSync ソフトウェアを使用するファイルの転送に関する更に詳しい情報には、Microsoft ActiveSync のヘルプを参照してください。

Windows Mobile Device Center を使用した接続

接続後、Windows Mobile Device Center のウィンドウから、

1. 「Connect without setting up your device」をクリックし、オフィスコンピューターと Trimble コントローラ間でファイルを移動・コピーし、情報を共有します。または、Windows エクスプローラを使用して、ファイルを移動・コピーします。
2. 「Setup your device」をクリックして、パートナーシップ関係をセットアップし、コンテンツを同期します。

Windows Mobile Device Center ソフトウェアを使用するファイルの転送に関する更に詳しい情報には、Windows Mobile Device Center のヘルプを参照してください。

ファイル転換

一般測量ソフトウェアとの間でデータが転送されるとき、Trimble ソフトウェアで使用できるように転換されるファイルもあります。

下の表は、一般測量ソフトウェアで使用されるファイルと、Trimble オフィスソフトウェアとの間で転送する時に転換されるファイルタイプを列記しています。

PC	コントローラ	説明	データ転送	MS エクスプローラ/ ActiveSync / MS エクスプローラ / Mobile Device Center
.dc	job	一般測量ジョブファイル	可	不可
.csv	.csv	カンマ区切り(CSV) ファイル	可	可
.txt	.txt	カンマ区切り(TXT)ファイル	可	可
.dtx	.dtm	デジタル地勢モデル ファイル	可	不可
.ttm	.ttm	三角地勢モデル ファイル	可	可
.fcl	.fal	特徴ライブラリ ファイル (TGO)	可	不可
.fxl	.fxl	特徴ライブラリ ファイル (TBC)	Y	Y
.ddf	.fal	データ辞書 ファイル	可	不可
.ggf	.ggf	ジオイドグリッド ファイル	可	可
.cdg	.cdg	結合測地グリッド ファイル	可	可
.pjpg	.pjpg	投影グリッドファイル	可	不可
.sgf	.sgf	シフトグリッドファイル	可	不可

.pgf	.pgf	UK National Grid ファイル	可	可
.dxf	.dxf	マップ ファイル	可	可
.shp	.shp	ESRI マップ・シェイプ・ファイル	可	可
.ini	.dat	アンテナファイル	可	不可
.lng	.lng	言語ファイル	可	可
.wav	.wav	サウンドファイル	可	可
.sty	.sty	測量スタイルファイル	N	Y
.xml	.xml	GNSS 問合せ先とサービスプロバイダファイル	Y	Y
.dat	.dat	GNSS データファイル	可	可
.t02 .dat	.t02	GNSS データファイル	可(TGO 用.dat)	可(TBC 用.t02)
.crd .inp .mos	.crd .inp .mos	GENIO 道路ファイル	可	可
.xml	.xml	LandXML 道路ファイルや XML 文書	可	可
.jxl	.jxl	JobXML ファイル	可	可
.ixl	.ixl	カスタム ASCII インポートファイル定義	不可	可
.xsl	.xsl	XSLT カスタム ASCII エクスポートスタイルシートファイル	可	可
.sss	.sss	XSLT カスタム杭打ちスタイルシートファイル	可	可
.mcd	.mcd	「コード測定」データベースファイル	不可	可
.dc	.rxl	Trimble 道路ファイル	Y	N
.rxl	.rxl	線形ファイル	Y	Y
.txl	.txl	トンネルファイル	Y	Y
.csd .csw	.csd	座標系データベース・ファイル	Y	N
.jpg	.jpg	画像ファイル	Y	Y
.tsf	.tsf	スキャンファイル	Y	Y

「不可」の場合には、「データ転送」を使用してファイルを変換してください。

Trimble Business Center ソフトウェアに .dc ファイルが転送されると、そのファイルに関連する全ての GNSS データファイルも転送されます。 .dc ファイルフォーマットに関する情報はトリンブル社のウェブサイト(www.trimble.com)から入手できます。更に詳しい情報には、お近くの Trimble 製品取扱店にお問い合わせください。

メモ – Trimble Business Center プロジェクトがジオイドモデルを使用する場合には、ジョブと一緒にジオイドファイル(またはそのサブグリッド部分)も一般測量ソフトウェアに転送することを忘れないでください。

Geodimeter(GDM)ジョブファイルの転送

コントローラで、または ASCII File Generator を使用するコンピュータで GDM ジョブを作成するには、[カスタム ASCII ファイルの作成](#) を参照してください。カスタム ASCII ファイルは、新しいフォーマットの生成に、変更可能な XSLT スタイルシートを使用します。

GDM job ファイルを Trimble コントローラからオフィスのコンピュータに転送するには、[上記](#) のようにデータ転送ユーティリティを使用します。

「開く」ダイアログが表示されたら、「ファイルタイプ」リストから「GDM Job」ファイルを選択します。

このオプションを使用して転送された GDM ジョブファイルは、Trimble コントローラで収集された一般測量データを含みます。

メモ – Trimble コントローラから Geodimeter ジョブファイル(例、test.job) を転送すると、ソフトウェアは 2 つのファイルを生成します。

- test.job (一般測量 ジョブファイルのバックアップ)
- testGDM.job (実際の GDM job ファイル)

GDM ジョブファイル作成時の特別機能

一般測量 でポイントに対するいくつかのユーザーデータ項目を収集してから、標準ユーザーレベル項目として GDM ジョブファイルにそのポイントの属性を出力できるようにすると、以下の機能がサポートされます。

GDM ジョブファイルが一般測量 データから作成されている間に、ポイント属性は次のように処理されます。90~99 という名前のポイント属性を指定し(定義可能な GDM ラベル)、かつその属性に値を割り当てた場合には、その属性は自動的に「ラベル 90=」~「ラベル 99=」として出力されます。

同様に、ポイント属性に「4」という名前を付け、それに値が割り当てられている場合には、属性は、ポイントに割り当てられた元のコードではなく、ポイントコード(ラベル 4=)として出力されます。

メモ – この機能を使用できるようにするには、適切な名前(例、4 や 90~99)の属性を持つ特徴を定義する特徴ライブラリを作成する必要があります。この特徴ライブラリを一般測量 に転送して、それを一般測量 ジョブに対して指定する必要があります。特徴ライブラリのサンプル見本は www.trimble.com でご利用になれます。

Zeiss M5 ファイルの転送

コントローラで、または ASCII File Generator を使用するコンピュータで Zeiss M5 ファイルを作成するには、「[カスタムフォーマットのエクスポート](#)」を参照してください。「カスタムフォーマットのエクスポート」を使用して作成した M5 座標ファイルから、3300・3600 設定マークを使用してファイルを作成できます。「カスタムフォーマットのエクスポート」は、修正可能な XSLT スタイルシートを使用して、新しいフォーマットを生成します。

Zeiss M5 ファイルを Trimble コントローラからオフィスのコンピュータに転送するには、[上記](#) のようにデータ転送ユーティリティを使用します。

「開く」ダイアログが表示されたら、「ファイルタイプ」リストから「M5」ファイルを選択します。

このオプションを使用して転送された M5 ファイルは、コントローラが収集した一般測量データを含みません。M5 ファイルは観測したポイントに対する座標も含みます。

データ転送ユーティリティを使用した ESRI Shape ファイルの転送

コントローラで ESRI Shape ファイルを作成するには、「[ESRI Shape ファイルのエクスポート](#)」を参照してください。

ESRI Shape ファイルを Trimble コントローラから作成し、オフィスのコンピュータに転送するには、[上記](#) のようにデータ転送ユーティリティを使用します。

「開く」ダイアログが表示されたら、「ファイルタイプ」リストから「ESRI Shape ファイル」を選択し、「グリッド座標(北距/東距/高度)」または「緯度/経度座標(ローカル緯度/経度/高度)のいずれかを選び、転送先のフォルダを選択します。

Shape ファイルと、ファイル名属性を使用してリンクしている全てのファイルが指定されたフォルダに転送されます。ジョブの中の属性情報を含むすべての特徴コードに、.shp、.shx、.dbf ファイルが作成されます。ファイルは「<ジョブ名>スペース<特徴コード名>」と命名されます。特徴コードを持たないポイントは、「<ジョブ名>.shp」、「<ジョブ名>.shx」および「<ジョブ名>.dbf」ファイルに保存されます。

ESRI Shape ファイル内でファイルリンクを維持する方法

一般測量では、ファイル属性フィールドを使用して画像や他の種類のファイルをポイントにリンクさせることができます。この情報をパスとともにファイルに入力することができ、一般測量内から画像をレビューすることができます。さらに、このパスによってデータ転送ユーティリティがリンクファイルを特定のフォルダへ転送することができます。

一般測量ジョブファイルが ESRI Shape ファイルに変換されたとき、パスはフィールドから取り除かれてファイル名だけが残ります。ファイル属性にアクセスするには、ESRI ArcMap ソフトウェアから [Hyperlink] ツールを使用します:

- [ArcMap document (*.mxd)]を属性フィールドで参照されたファイルと同じ場所に保存します。Use the [Identify tool]を使用してポイントと属性を選択します。ファイル属性フィールドを選択し、ハイパーリンクを有効にしてファイルを開きます。
- または ESRI ArcMap ソフトウェアで、ファイル属性のある [Layer] を右クリックし、[Properties] を選択します。[Display] タブで、[Support Hyperlinks using field] チェックボックスが選択されていることを確認し、ドロップダウン・ダイアログから適切なフィールドを選びます。[File] メニューで [Document Properties] を選び、[Hyperlink Base] フィールドへパスを入力します。[Hyperlink tool] をクリックし、ファイル属性のあるポイントを選んでハイパーリンクを有効にし、ファイルを開きます。

データ転送ユーティリティで ESRI Geodatabase XML ファイルを作成する

ESRI Geodatabase XML ファイルを Trimble コントローラから作成し、オフィスのコンピュータに転送するには、[上記](#) のようにデータ転送ユーティリティを使用します。

「開く」ダイアログが表示されたら、「ファイルタイプ」リストから「ESRI GeoDatabase XML ファイル」を選択し、「転送先」のフォルダを選択します。

Geodatabase XML ファイル (*.xml) と、ファイル名属性を使用してリンクしている全てのファイルが指定されたフォルダに転送されます。各特徴コードにつき 1 つのレイヤが一般測量ジョブ内に作成されます。

ESRI GeoDatabase XML ファイル内でファイルリンクを維持する

一般測量では、ファイル属性フィールドを使用して画像や他の種類のファイルをポイントにリンクさせることができます。この情報をパスとともにファイルに入力することができます。一般測量内から画像をレビューすることができます。さらに、このパスによってデータ転送ユーティリティがリンクファイルを特定のフォルダへ転送することができます。

一般測量ジョブファイルが ESRI GeoDatabase XML ファイルに変換されたとき、「転送先」パスは XML ファイルに残ります。XML ファイルが GeoDatabase にインポートされる時、[Hyperlink] ツールはこのパスを使用して属性ファイルへリンクします。ファイルが動かされると ArcGIS 内のリンクルーツは作動しなくなります。

AutoCAD Civil 3D と Land Desktop ソフトウェア

Trimble Link ソフトウェアを使用すると、一般測量ソフトウェアと AutoCAD Civil 3D と Land Desktop ソフトウェア間でデータを転送できます。